

中東情勢の現状と行方
～資源エネルギー・金融情勢の動向を左右する大国間パワーゲーム～

インド亜大陸担当：森尻 純夫 研究員

<課題・関心事項> ※箇条書き 目安 3～5 件程度

- ① イランからパキスタンを経由するインドへの天然ガス・パイプライン敷設が三国間で実質合意された(08年5月)。
- ② かねてから懸案の印米民政核開発は、その推進と安全対策について西ベンガル州、タミール州などからの問題提起(疑義)に対して、合意形成が成立していない。
- ③ 石油、食品の高騰によって加速するインフレは、遂に 8.1%を記録(5月・前年同月比)した。これを嫌って、ムンバイ株式市場センセックスは 352 ポイント下降した(6月2日)。しかし、同日中にスズキ・マルティ、ヒーロー・ホンダなどの花形株は買い支えられた。イスラム投機マネーによるものと推測されている。
- ④ 核搭載可能・長距離弾道ミサイル実験に成功(4月)したインドは、ミサイル迎撃システムの開発にむかっている。04年からイスラエルをパートナーに開発してきたシステムを実験実施にむけて発進(5月)している。
- ⑤ 外務大臣プラナド・ムケルジーは1月末以来、ガルフ、北アフリカ諸国 27 か国との連携強化を課題として推進してきた。エネルギー、投資、そして戦略パートナーシップが課題である。(参照：6月4日・「ザ・ヒンドウ」紙、アトゥル・アネジャの分析)

<解説>

■ 上記⑤ 「ガルフ、北アフリカ 27 か国との連携強化」について

石油、食品関連の高騰にさらされ、決定的な物価抑制策も打ち出せないでいる。それでもインドは GDP 目標値 9%を達成していかなければならない。特にマンモハン・シン首相は成長論者であり、経済拡大政策を緩めることはない。

アメリカの景気減退を受けて、ますます蓄積を増大しているイスラム圏との連携を強化する方向に傾いてきている。

国内にイスラム経済人を擁するインドは、その底流に西アジア、中東イスラム圏との関係を持っていた。現在、そうした底流の関係をリセット、強化する方向にある。

それは結果としては、経済を軸としたパキスタンとの友好関係の推進にもなっている。この路線が発展すれば、亜大陸全域の安定にも繋がっていくはずである。